

図 6 木曾で検出された紫外超過天体の色指数頻度分布、白色矮星 34 個、準星 11 個以外は木曾で新たに検出された天体。

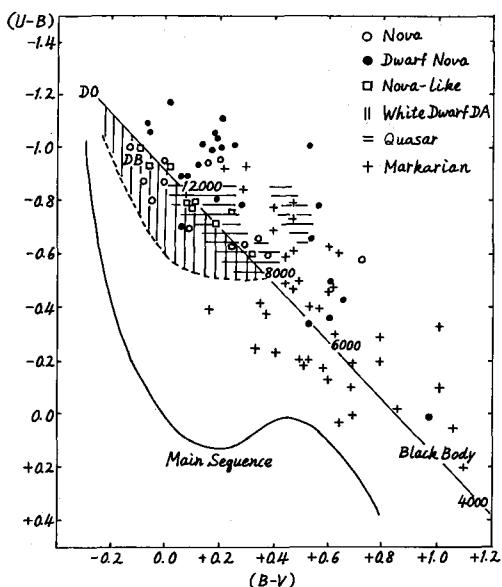


図 7 紫外超過をもつ代表的天体、各種の文献から抜萃した。

HZ 天体と呼ばれて数多くの特異天体を含んでいて、現在もなお各種の観測及び解析が続けられている。彼らの他にも幾多の観測があるがここでは割愛させていただく。

木曾における紫外超過天体の探査はその領域も広がり、検出した天体は順次カタログを作成するよう計画している。その中で銀河状の天体については KUG (木曾紫外超過銀河) カタログとして発表される予定であるが、本稿では触れないで、見かけの形状が恒星状のものにとどめる。このカタログは KUV (木曾紫外超過天体) カタログと称して、検出した天体の等級と色指数の視察値及び角度の 1" 程度の精密位置を測定して発表の準備を進めている。予備的探査を終えた 18 天域で検出した紫外超過天体は 411 個である。その中すでに他のカタログに登録されているものは 45 個ある。検出した紫外

超過天体を木曾の色指数により分類してその頻度分布を図 6 に示す。他のカタログに登録されている 45 個の内訳は白色矮星が 34 個、準星が 11 個である。残りの大多数はこれまで知られていないものと思われ、これらの天体が何であろうかと興味の湧くところである。検出した紫外超過天体の中で大きな変光を示すものも数個発見されていて、その中の 1 個は矮星の爆発現象をとらえたと思われる。図 7 に紫外超過をもつ代表的天体が 2 色図上での位置を占めるかについて、参考までに種々の文献から抜萃したものを重ねて描いてみた。これらの天体のどれに属するのか、または未だ知られてないような特異な天体が含まれているのか興味は尽きない。

紫外超過天体を詳細に調べるために分光や測光の観測を行う必要がある。しかし、検出した紫外超過天体の多くは 17 等とか 18 等級と暗い。日本最大の光学望遠鏡である岡山天体物理観測所の 188 cm 鏡で、16.5 等の天体の低分散スペクトル（辛うじてスペクトル型の 2 次元分類可能な 200 Å/mm 程度）を得るのに、映像増幅管の助けを借りて写しても 3 時間かかる。また、91 cm 鏡での広帯域光電測光の限度も 16 等どまりというのが実情であり、次期大型光学望遠鏡や木曾の測光望遠鏡の出現を見るまでは当分「これらの天体が何であろうか」と思い続けることになるであろう。

### お知らせ

#### 山田科学振興財団研究援助候補推薦について

山田科学振興財団より学会あてに、下記内容の 55 年度分研究援助候補の推薦依頼がありましたのでお知らせ致します。

#### 記（推薦要領抜萃）

- 援助の対象：自然科学の基礎的分野における重要なかつ独創的な研究、特に学際的色彩を持つ研究に従事する個人又はグループ。
  - 援助の金額：総額 1 億 2 千万円。1 件につき 1 千万円前後 2 千万円以内の援助 (A) 及び 1 件につき 3 百万円前後、5 百万円以内の援助 (B) を併せて 10 数件。
  - 援助の期間：原則として 1 年。
  - 推薦件数：1 推薦者ごとに (A), (B) おのおの 1 ~ 2 件。
- 申請用紙を御入用な方は、学会庶務理事までお申し出下さい。申請書は、昭和 55 年 10 月 10 日までに学会あて提出して下さい。

### 訂正

5 月号表紙写真、目次下の表紙写真説明、および 118 ページの写真説明が間違っていたので訂正します。

表紙写真下：45 m 電波望遠鏡主鏡骨組

目次下説明：45 m 電波望遠鏡主鏡骨組、(三菱電機通信機製作所で仮組中) 1980 年 2 月

118 ページ：図 3 ベノト杭工事 (79/7/17)